



3/26-27
TWIN RING
MOTEGI



6/18-19
FESTIKA CIRCUIT
MIZUNAMI



7/9-10
MOBARA
TWIN CIRCUIT



9/17-18
SPORT LAND
SUGO



10/22-23
SUZUKA
CIRCUIT



不安定な天候に泣かされるも 太田・三宅ともに光る速さを披露

2016年オートボックス 全日本カート選手権 第3戦・第4戦

■開催日: 6月18~19日 ■開催場所: 岐阜県・フェスティカサーキット瑞浪 ■天候: 18日晴れ/19日曇~雨 ■路面状況: ドライ~ウェット ■参加台数: 23台

オートボックス全日本カート選手権KFクラスの今季2度目の大会は、前回のもてぎラウンドから約2か月のブランクを空けて、6月18日(土)~19日(日)に開催された。岐阜県のフェスティカサーキット瑞浪は、ハイスピードのレイアウトながらもテクニカルな性格を併せ持ち、オーバーテイクポイントも多いことから、常に見応えのあるレース展開になるサーキットである。

18日(土)は快晴に恵まれ、強い日差しで気温が30度を超える暑い一日となった。最高峰クラスで2度目の大会を迎えた三宅淳詞(31号車)は、この日の公式練習で2番手のタイムをマークすると、続いて行なわれたタイムトライアルでもトップと僅差のタイムで2番手となった。太田格之進(30号車)は、公式練習ではセッティングのデータ収集に徹したため13番手に留まったが、タイムトライアルでは4番手に着けた。

予選から決勝までが行なわれる19日(日)は、朝からどんよりとした曇り空となり、天気予報では正午あたりからの降雨が予想された。予選は第3戦も第4戦も、スターティンググリッドの最前列と2列目に、三宅と太田が縦に並んで、両選手とも上位入賞が期待できる好位置からのスタートとなった。





第3戦 太田格之進：予選5位・決勝9位 / 三宅淳詞：予選6位・決勝8位

予選ヒート (16周)

予選開始の15分ほど前、ポツポツと小雨が降り始めた。路面を濡らすほどの雨にはならなかったが、このコンディション変化の影響もあってか、予選のスタート直後からブリヂストンタイヤを使用するドライバーたちが次々と順位を下げていく。三宅もその例に漏れず、ポジションダウンを余儀なくされた。また、太田はスタート直後の激しい攻防の中で後続車に追突され、17番手まで後退した。だが、間もなく雨が止むと両者とも調子を取り戻し、着実に順位を上げ、太田が5位、三宅が6位でこのヒートを終えた。

決勝ヒート (22周)

予選の後に再び降り始めた雨はやがて止み、第3戦の決勝はドライコンディションで始まった。三宅は1周目に4番手へ順位を上げ、そのすぐ後ろに太田が着ける。その時、またも雨粒がコースに落ち始めた。不安定な路面コンディションにより、コース上ではスリリングなバトルが展開された。

上位集団でアクシデントが発生し、三宅がこれを緊急回避するため、大きく順位を下げてしまった。しかし、三宅は諦めることなく攻め続け、最後は8位まで順位を取り戻してチェッカーフラッグを受けた。一方、太田は天候の影響を受け本調子を発揮できない状況ながら、粘り強く戦い続けて9位でフィニッシュ。運に恵まれないレースながら両名ともポイント獲得に成功した。

2016年全日本カート選手権 KF class 第3戦 リザルト (23台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	4	朝日 ターボ	MASUDA RACING PROJECT	22
2	3	宮田 莉朋	EXPRIT TAKAGI RACING	22
3	18	菅波 冬悟	SUCCEED SPORTS Jr.	22
8	31	三宅 淳詞	TOYOTA YAMAHA RT	22
9	30	太田 格之進	TOYOTA YAMAHA RT	22

第4戦 太田格之進：予選16位・決勝失格 / 三宅淳詞：予選14位・決勝15位

予選ヒート (16周)

第4戦の予選の前に本降りの雨がサーキットを見舞い、コースは完全なウェットコンディションとなった。予選開始までに雨はかなり弱まったのだが、レースは全車ウェットタイヤを装着してのスタートを迎えた。

難しい状況判断を強いられる中、太田と三宅が装着したタイヤはこのコンディションにうまくマッチせず、ふたりは序盤から順位を下げていく。ゴールは三宅が14位、太田が16位。ここから決勝での挽回を期すこととなった。

決勝ヒート (22周)

雨は一時止んだものの、第4戦の決勝を前にまた強く降り始め、コースは予選と同じウェットコンディションのままとなる。太田と三宅はこのレースもウェットタイヤを装着してスターティンググリッドへ向かった。

決勝は予選と同じタイヤを装着しなければならないため、困難な状況は変わっていないのだが、三宅はひとつでも上の順位を目指して全力で走り続け、オーバーテイクも披露。22周を走り切って15位でフィニッシュした。

太田はスタート直前になってマシンに大きな問題が見つかり、その対策を試みたのだがこの作業を認められず、決勝に出走することはできなかった。

2016年全日本カート選手権 KF class 第4戦 リザルト (23台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	4	朝日 ターボ	MASUDA RACING PROJECT	22
2	3	宮田 莉朋	EXPRIT TAKAGI RACING	22
3	21	三村 壮太郎	crocpromotion	22
15	31	三宅 淳詞	TOYOTA YAMAHA RT	22
	30	太田 格之進	TOYOTA YAMAHA RT	0

チーム代表 片岡龍也


スケジュールの都合で第1・2戦に来ることができず、今年のレースに帯同するのは今回が初めてでしたが、ドライでのパフォーマンスは昨年に比べて非常に上がっていることが分かりました。今までチームがやってきたことがようやく形になりつつあると感じています。今回、ウェットレースでの性能が十分でなかったことは残念なのですが、ふたりのドライバーが優れたパフォーマンスを発揮してくれたことで、チームの士気も上がっています。今年こそは皆様の応援に結果で応えることができそうだと、手応えを感じています。

三宅選手のレースを初めて見たのですが、精神面が非常に落ち着いたドライバーです。自分の状況を客観的に判断しながら走ることができますし、スピードも申し分ない。今後が非常に期待できるドライバーだと感じました。

2年目の太田選手は、昨年からメンタル面で成長しているところが見えました。特に第3戦の予選で、不運なポジションダウンから素早く追いついてみせたのは、その表れだと思います。タイムトライアルやレースでのペースも含めて、進歩を実感できるレースでした。

30 太田 格之進 /Kakunoshin OTA
AGE:16


タイムトライアルで前の方に行けば、その後も前向きな気持ちで楽しく走れるのだと、今回のレースで分かりました。ドライコンディションでは自分自身もタイヤもポテンシャルが上がっていることを感じられましたし、今後は今まで以上にいいレースをお見せできると思います。

今日の最後のレースを走れなかったのは残念だったのですが、予選ではタイヤを労わりながら上手く順位を上げることもできましたし、結果以上に収穫のあったレースでした。

31 三宅 淳詞 /Atsushi MIYAKE
AGE:17


タイムトライアルで1位を獲れなかったことは悔しいのですが、ドライコンディションでのスピードは前回より進歩させることができたと思います。この勢いを継続して、次の茂原大会では是非1位を獲りたいです。

第3戦の予選では、自分の課題だったタイヤ温存をしっかりと考えながら走ることができて、その上で2番手のタイムを出すこともできました。それだけに、雨でいい流れが途切れてしまったことが残念です。

総合ポイントランキング

- 1.朝日ターボ (109/109) 2.角田裕毅 (99/99) 3.宮田莉朋 (81/81) 4.高橋悠之 (77/77) 5.菅波冬悟 (74/74) 6.名取鉄平 (71/71)
7.三宅淳詞 (67/67) 8.三村壮太郎 (52/52) **17.太田格之進 (23/23)**